

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年9月30日

〔認知症対応型共同生活介護用〕

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771501083
法人名	医療法人 浩治会
事業所名	グループホームゆめの里
所在地	大阪市東成区大今里西2丁目17-16 (電話) 06-6975-3081

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 9月 12日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 27日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	10人, 非常勤 6人, 常勤換算 14.0人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	7階建ての	6階 ~	6階部分

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	84,000~74,000円	その他の経費(月額)	39,000円	
敷金	有( ) 無( )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	250円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要 (平成 20年 5月 27日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人野中会 東成病院、医療法人公道会、医療法人大道会 大道病院、下地歯科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

最寄駅から近く交通の便が大変良い環境にあります。医療法人が経営する老人保健施設と通所リハビリテーション施設が併設する7階建ての建物の6階にホームがあります。「誰もがありのままに、その人らしく、家庭と変わらない生活ができ、安心して、楽しく暮らしていける生活。人間としての尊厳を守るケアを行う」ことを理念に掲げ、利用者の希望や意向をできる限り汲み取り、実現できるケアに取り組んでいます。その意向により、毎日の外出を行ったり、近くの公園を掃除したり、米屋や八百屋に買い物に行ったりと地域の中に自然に溶け込み、馴染みの関係作りが構築され、利用者は生き生きとした生活を送っています。またほとんどの家族は週1回、ホームでの暮らしぶりなど伝えたり話やすい雰囲気づくりに配慮し、ホームへの訪問があります。その際、家族との関係も良好です。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回評価での大きな改善課題はなかったものの、評価結果を職員全員で確認し質の確保・向上に取り組んでいます。評価結果は玄関受付にも置き、来訪者が自由に閲覧できるようにしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたっては管理者が職員に項目ごとに意見を求め、皆で話し合いその結果をまとめて作成しています。管理者は職員が意見などを自由に発言できるような関係作りに努めています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員などが参加し2カ月に1度定期的に開催しています。外部評価の結果報告や利用者への取り組み、日常生活の報告などを行っています。参加者からの意見や要望をできるだけ出してもらい、話し合える機会を設けています。今年3月にできた区役所内にある市民協働スペースの活用により、そこで気軽に区役所の担当者との相談ができ連携を図っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	事業所内には意見箱を設置しています。家族の訪問が多く、来訪時いつでも気軽に話せるような雰囲気を作り、意見、苦情などがあれば伝えてもらえるよう配慮しています。ホームでの暮らしぶりなどはその都度伝えています。また年4回発行される法人広報誌を家族へ郵送してホームでの行事など連絡しています。金銭管理は出納帳と領収書の確認を訪問時に行い、サイン・捺印してもらっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、地域の老人会の行事や町内会のふれあい喫茶、盆踊り、バザーに参加し地域の人たちと交流を図っています。また利用者と職員と一緒に米屋や八百屋に出かけ、馴染みの関係ができています。また、週2~3回は利用者と共に近くの公園の掃除を行い、地域の方と触れ合う機会があります。中学生の体験学習も受け入れています。

## 2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、楽しく、あたりまえの生活を共に」をモットーにホーム独自の理念として「誰もが、ありのままに、その人らしく暮らし、家庭と変わらない生活をする事ができる」ことを目指しています。また住み慣れた地域の中で地域の方々と関わり合いを持ちながら安心した暮らしが継続できるよう支援しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの玄関先や事務所内に掲げており、職員はいつも理念を意識しながら日々利用者のケアに取り組んでいます。毎朝のミーティング時には職員全員が理念の共有ができるよう積極的に話し合い、努力をしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会に入会し、地域の老人会の行事や町内会のふれあい喫茶、盆踊り、バザーに参加し地域の人たちとの交流があります。また利用者と職員と一緒に米屋や八百屋に出かけ注文を行い馴染みの関係ができています。週2～3回は利用者と共に公園の掃除を行い、地域の方にも喜ばれています。中学生の体験学習も受け入れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は職員全員が見直しを行い、改善に向けて取り組んでいます。自己評価は管理者を中心に、職員の意見を聞きながら作成しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員などが参加し、2カ月に1度定期的開催しています。外部評価の結果報告や利用者への取り組み、日常生活の報告などを行っています。参加者からの意見や要望をできるだけ出してもらい話し合える機会を設けています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年3月に開設された区役所内にある市民協働スペースで、気軽に区の担当者と相談ができ連携がとれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行される法人広報誌を家族へ郵送し、ホームでの行事連絡や暮らしぶりについて家族へ連絡しています。家族の面会も多く、その都度、利用者の様子などを報告しています。金銭管理は出納帳と領収書の確認を家族の訪問時に行い、サイン・捺印してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内には意見箱を設置しています。家族の訪問が多く、来訪時いつでも気軽に話せるような雰囲気を作り、意見や苦情などあれば伝えてもらえるよう配慮しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任職員には先輩の常勤職員が約1ヶ月から1ヶ月半一緒に業務を行うようにしており、利用者との信頼関係を構築しています。退職した職員がボランティアに来ることもあり、急な環境の変化を最小限に抑える努力をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にある各部署の代表者で構成された「教育委員会」の企画で内部研修を月1回定期的に行っています。そこでは外部研修の報告会も行い、情報の共有を図ってサービスの向上に役立っています。職員が研修に参加したい希望があればシフトを変更しできるだけ参加できる機会を設けています。今後はホーム内での独自の内部研修を計画し、実施してはいかがでしょうか。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内には4つのグループホームがあり、2ヵ月に1回程度の割合で交流会を行っています。他事業所の現状を聞き、お互い相談や意見交換を行うことによって日々のケアに活かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には自宅を訪問し、今までの生活ぶりを家族から聞きながら、本人と馴染みの関係を作っています。日中のみ体験利用できるようになっており、徐々に馴染めるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の得意な利用者は、職員と一緒に家事を手伝い、生き生きとした表情で過ごしています。また懐かしい音楽を聞きながら歌の説明や、昔を懐かしみ苦労した時代の大変さを若い職員に伝え、職員も学んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望により落ち着かない利用者には、職員が自宅まで付き添って外出を行うこともあります。利用者が希望することをできる限り実施できるよう努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はカンファレンスなどで職員から意見を出してもらい、話し合った結果を基に作成しています。また家族にも内容の説明を丁寧に行い、了解を得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しを行っています。ケア目標についても現場の職員から情報を収集し、話し合う機会を設けています。しかし、再アセスメント、モニタリング結果の確認ができませんでした。	○	話し合いの中から、再アセスメントを実施し、モニタリング（評価）を介護支援専門員の視点から記録として残すことが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院などに家族が同行できない場合は職員が同行の支援をしています。併設している老健施設、デイケアと合同で行事に参加しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入居前からのかかりつけ医へ定期的に受診しています。緊急時は協力病院と連携し対応できる体制を整えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	将来は看取りを実施する予定ではありませんが現在は行っていない状況です。今後は家族やかかりつけ医と話し合いながら進めていくことを検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対する言葉かけなど丁寧でやさしく接しています。職員は入社時に個人情報の取扱いに関して書面で承諾を取っています。また尊厳を守るケアを大切に、利用者とは接する態度など十分気を付けていくよう書面などで周知しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩は利用者の意向に沿いながら行っています。毎日の日課は特に決まっておらず、利用者自身の気持ちを尊重した生活ペースに配慮しながら支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕は併設している施設の厨房から食事が運ばれ、盛り付けなどは利用者と一緒に行っています。昼食は業者から食材のみを外注しホームの台所で調理しています。食事の準備や片付けは利用者が積極的に参加し、利用者がお茶を入れたり、食器洗いを行ったりと生き生きとした姿が見られます。利用者の希望で月に1回は寿司の出前をとっています。また月3～4回は利用者と一緒に好きなメニューを考え、買い物から調理まで行っています。郷土料理など腕を振るう利用者もおり、楽しみの一つとなっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今のところ入浴時間は午後からになっていますが、回数や入浴の順番など利用者の希望で入浴でき、ほとんどの利用者が週に3回入浴しています。希望があれば午前中も入浴できます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者から聞いた昔の懐かしい話や思い出などを基に「宝物ノート」を作成し、その人らしさを生かせるような支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日外出することが日課になっています。1日2回外出希望される方もいます。近くの公園を散歩したり、買い物に行ったりしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの玄関は解錠しており、ユニットの出入りも自由にしています。鍵をかけることでの心理面の不安を除くため、利用者の状況を見ながらできるだけ外出支援にて不安の軽減を行う配慮をしています。しかし、6階エレベーターは電子ロックで施錠されており、利用者自身では開けることはできません。	○	今後、利用者の安全を確保しつつ、不安や閉塞感がないように、エレベーターの開錠方法などを職員間で話し合い、取り組んでいくことが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練の実施を行っています。非常食の備蓄として水や缶詰などの食料が用意されています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分量の把握を行い、体調面に留意しながら摂取を促しています。食事形体など利用者に合わせ細かく切ったり、トロミをつけたり、摂取しやすいよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に応じて利用者が生けた花が飾られています。居間、食堂には椅子テーブル、ソファがあり、それぞれが自由に座れ、ゆっくりとくつろぐことができます。廊下には椅子を配置し、利用者同士の会話が楽しめるように配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット、ベッド、イスの備えつけはありますが、利用者の馴染みの家具やイス、携帯電話などの持ち込みは自由です。仏壇を置いている利用者もおり、毎日花の水替えも行っています。人形作りが趣味であった方はたくさんの人形を飾ったり、動物好きな方は本や写真ポスターも飾ったり、利用者自身にとって居心地のよい空間作りができています。		